

今村文彦教授、柴山明寛准教授、佐藤翔助教が平成 27 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において科学技術賞(科学技術振興部門)を受賞しました(2015/04/07)

テーマ：震災アーカイブ，受賞

当研究所の今村文彦教授、柴山明寛准教授、佐藤翔助教（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）の 3 名が、「平成 27 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」において科学技術賞（科学技術振興部門）を受賞しました。文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を行っています。科学技術賞は、全部で 5 部門あり、今回受賞となった科学技術振興部門は、大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出、地域における産学官連携、研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において、科学技術の振興に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる者を表彰するものです。今回、受賞の対象となった業績は、次のものです：

「東日本大震災アーカイブ技術と利活用の振興」

（今村文彦，柴山明寛，佐藤翔輔）

同業績は、当研究所で行っている東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」に関する一連の取り組みです。広域で膨大な震災記録を収集するために、産学官民の約 120 機関の賛同協力機関と協力し、新しい「震災アーカイブ」を構築しました。「みちのく・いまをつたえ隊」による震災記録の継続的な収集、震災記録のタグ付け手法を確立しました。また、震災記録を幅広く共有するために、他機関連携のための震災メタデータの開発も行い、約 10 万点の共有に成功しています。加えて、震災記録の利活用を促進するために、震災記録の検索技術、可視化技術、防災教育ツールの開発も行いました。以上の点が評価され、この度の受賞となりました。

この度の受賞は、言うまでもなく、「みちのく震録伝」に賛同・協力いただいた関係各所の皆様のご尽力によるものです。今後も、震災アーカイブに関連する活動を継続し、東日本大震災の実態解明や今後の防災・減災活動に精進してまいります。

業績の内容の詳細は、次頁に掲載します。なお、授賞式は、4 月 15 日（水）に文部科学省で行われます。



柴山明寛准教授



今村文彦教授



佐藤翔助教

受賞者 3 名

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）

（次ページへつづく）

【実績】

- (1) 開発および開発支援したアーカイブ（4件）
 - ・ みちのく震録伝（東北大学災害科学国際研究所）
 - ・ 河北新報 震災アーカイブ
 - ・ たがじょう見聞憶 | 史都・多賀城 防災・減災アーカイブス
 - ・ NHK 東日本大震災アーカイブス証言 web ドキュメント
- (2) 「みちのく震録伝」に収録・公開されているコンテンツ数
 - ・ 2012年度 約 17,000点
 - ・ 2013年度 約 100,000点
 - ・ 2014年度 約 130,000点
- (3) 震災アーカイブ利活用システムの開発・公開（8件）
 - ・ 3D映像記録 東日本大震災（NHK メディアテクノロジーと共同）
 - ・ 震災の画像記録「のべ 4000km 被災沿岸の走行記録」（グローバルサーベイ社と共同）
 - ・ 東日本大震災ライブラリー「津波再現シミュレーション」（国際航業と共同）
 - ・ LVSquare みちのく（アジア航測と共同）
 - ・ 「みちのく・いまをつたえ隊」フォトマップ
 - ・ 「ヒトの目に映る 3.11 津波浸水」
 - ・ 「復興へ カワル・みちのく風景」
 - ・ 東日本大震災で被災した宮城県沿岸部の無形文化財データベース「みやしんぶん」
- (4) イベントの開催・参加人数（9件, 2,780人）
 - ・ 東日本大震災アーカイブ国際合同シンポジウム（2012年1月11日, 仙台市, 300人）
 - ・ 東日本大震災アーカイブシンポジウム（2013年1月11日, 仙台市, 250人）
 - ・ 東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム（2014年1月11日, 仙台市, 250人）
 - ・ かたりつぎ ー朗読と音楽のタペー（2013年3月1日, 仙台市, 800人）
 - ・ 語りベシンポジウム「かたりつぎ」（2014年3月5日, 仙台市, 1,000人）
 - ・ 「津波災害の記憶を巡る」シンポジウム（2013年8月8日, 仙台市, 80人）
 - ・ 災害かたりつぎ研究塾 夏合宿 in 東北（2013年8月9日-10日, 石巻市・東松島市・名取市, 30人）
 - ・ 災害かたりつぎ研究塾 秋合宿 in 新潟（2013年11月2日-3日, 長岡市・小千谷市, 30人）
 - ・ 災害かたりつぎ研究塾 冬合宿 in 兵庫（2013年12月7日-8日, 兵庫県神戸市, 40人）
- (5) 震災記録誌作成支援（2件）
 - ・ 七郷市民センター震災記録誌
 - ・ 七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター記録誌
- (6) その他の協力（2件）
 - ・ NHK 東日本大震災アーカイブスで防災・減災を学ぶ
 - ・ NHK “もしも”のときに備える防災クイズ「地震だ！ どうする？ どーもくん」

【業績の内容】

東日本大震災アーカイブ「みちのく震録伝」の開発について、以下の要素から構成される。(1) 震災記録の収集方法の確立、(2) 震災記録の整理方法の確立、(3) 震災記録の共有方法の確立、(4) 震災記録の利活用方法の確立。以下にそれぞれについて、概略を説明する。

- (1) 震災記録の収集方法の確立：産官学民の約 120 機関の賛同協力機関の連携による震災記録の収集、河北新報社との共同で震災関連の新聞記事の収集、被災自治体との共同での自治体の震災記録の収集、被災地図書館と連携してチラシや書籍の収集、被災住民からなる「みちのく・いまをつたえ隊」の組織運用・記録収集
- (2) 震災記録の整理方法の確立：写真画像の整理方法の確立、画像の自動分類技術を応用した自動アノテーション技術、テキストマイニング技術を利用した新聞記事の自動アノテーション技術の開発
- (3) 震災記録の共有方法の確立：共有のための API (OAI-PMH, OpenSerach) の開発。これにより、国立国会図書館「ひなぎく」、ハーバード大学ライシャワー日本研究所「JDArchive」、宮城県多賀城市「たがじょう見聞憶」、河北新報社「河北新報震災アーカイブ」との震災記録の連携を実現。
- (4) 震災記録の利活用方法の確立：震災記録の利活用モデルとして、「復興へ カワル・みちのく風景」、「ヒトの目に映る 3. 11 津波浸水」を開発。NHK 証言アーカイブ構築や防災教育アプリ「津波 AR」の開発を支援し、震災アーカイブ利用を促進。「かたりつぎ」シンポジウムをはじめ、多くのイベントを開催し、震災アーカイブの普及に貢献。



図 「みちのく震録伝」の全体像

【業績に関する主要論文】

永村美奈, 佐藤翔輔, 柴山明寛, 今村文彦, 岩崎雅宏：「東日本大震災に関する記録・証言などの収集活動の現状と課題」, 記録管理学会論文誌, No. 64, p. 49~66, 2013年3月
 佐藤翔輔, 今村文彦, 林春男：「東日本大震災における被災地外からの人的支援量の関連要因に関する分析」, 地域安全学会論文集, No. 19, p. 93~103, 2013年3月